

「同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために 小・中・地域の交流と連携を深めよう」

I 主題設定の理由

- 同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を行う。
- 地域との連携を強化し、「地域の子どもは、地域で教育する」という視点で地域の教育力の向上を図る。
- 小学校・中学校の連携を強化し、小・中の系統的な教育のあり方を研究する。

II 研究の内容

1 第1回ブロック交流研究会（夏季学習会）

(1) 日時 8月5日（金） 13:30～16:00

(2) 場所 松里中学校

(3) 目的

- ・3校の共通の教育課題について、講師を招いて対応について学び、児童生徒の健全な育成を図る。
- ・松里中学校の児童・生徒や地域の様子について情報を交換し、今後の学習指導や生活指導に役立てる。

(4) 内容 【学習会・情報交換会】

- 「甲州市『確かな学力』育成プロジェクトからみる松里中学校区の児童生徒の実態に即した研究のあり方」について甲州市指導主事那須丈彦先生からの講演を聞く。
- 児童生徒の状況把握や地域（松里中学区）についての情報交換を行う。

2 第2回ブロック交流研究会（松里小学校授業公開の参観）

(1) 日時 11月16日（水） 13:50～16:15

(2) 場所 松里小学校各教室

(3) 目的

- ・松里中学校区のブロック小中教職員が、小学校の授業の様子を参観し、児童の様子を把握する。
- ・各校の学習や生活の様子を情報交換することで、地域の教育的課題を明らかにし、小中連携して児童生徒の健全な育成を図る。

(4) 内容 【授業参観】

【全体会】

- 各校の校内研究の概要について（各校研究主任より）
- 各校の自主学習ノートの取り組みについて（各校の実践報告から）
- 児童生徒の様子と情報交換（各校児童・生徒指導担当より）

3 第3回ブロック交流研究会（小中連携に関する学習会）

(1) 日時 1月18日(水) 15:30～16:40

(2) 場所 井尻小学校

(3) 目的 ・松里中学校区の現職の教員による小中連携の実践から3校の共通の課題について学びながら、今後の指導に役立てる。

(4) 内容 【学習会】

○「フランスの生徒指導から学ぶ」

発表者 井尻小学校 教諭 中村直人

○「小中連携に関する出前授業 ～「すてっプ」の取り組み～」

発表者 松里中学校 教諭 古屋友香

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 小中連携の大切さは教育課題や子ども達の実態から見ても実感している。3回のブロック交流研究会の内容（児童生徒の情報交換，松里小学校の授業参観，学習会）が工夫されていたので，充実した研究内容であった。
- 松里ブロックの先生方の交流の場にもなり，児童生徒をお互いに理解することが出来て良かった。
- 児童・生徒一人ひとりを大事に育てると同じ目線で連携ができていることが成果だと感じる。今後もさらに深めていきたい。
- 現職の教員が，小中連携の実践報告ができたことは大変に有意義であった。特に，地区に所属する教員全員が情報を共有し，今後も取り組みを継続する必要性を感じたことはブロック研究の大きな財産となった。
- 松里小学校の授業参観で児童の状況を把握し，具体物を提示しながら各校の自主学習ノートの取組に関してより深く情報交換できたことは良い機会だった。具体的に家庭学習と授業との連携をどう図るのか，アクティブ・ラーニングの必要性など，深く追究できた研究会になった。

2 課題

- ▲限られた時間や回数ではあるが，「小学校で身につけてほしい力」「身につけておきたい習慣」などを継続して情報交換ができると今まで以上に小中の連携を深めることができると考えられる。
- ▲2年に1回くらいは，臨地研修を行い，地域の文化財や特産物，伝統行事を知る機会を作っても良いと思う。
- ▲少し言いづらい問題でも，小中で言い合えるような関係づくりがさらに構築できたら，子どもたちの健全育成につながられていくと思う。今後も気軽に情報を言い合える雰囲気づくりを行っていきたい。

(ブロック長 武藤英紀)